

時事

タイムスの日露戦争批評 (四十)

タイムスの軍事記者が其五月九日の紙上に論じたる所左の如し

沈勇なる閉塞行動

我等は今旅順口の港口を閉塞したる最後の計に就いて日本よりの報に接するを得たり東郷提督の不撓は遂に之に其相當する應酬を得るに至りしめたり沈置水雷、陸岸砲隊乃至魚形水雷を怖れずして港口に突進したる通計一萬七千噸を算する八隻の老朽汽船中その五隻以上は港口の其豫定地點に到達するを得たりと云ふ内二隻は防材を破り中央航路に進みて沈没せり水雷艇以上の大船は最早や出入するを能はざる旨宣言する果して然りとせば大規模を以て目下進行中なる揚兵行動は著しく其安全を増したりと爲すべし閉塞船に乘組みたる將校及び水兵の勇氣は海軍戦史に存する如くなる美事にも僅に比肩するに堪へ此一事を以てするも日本の海軍は最良なる海軍に伍を列するの價值ありとす汽船に乘組みたる百五十九名の兵員中將校八名水兵三十六名のみ無事歸着し二十名の將校を併せ殘員は盡く戦死負傷又は行方不明となれり其行動の成功は即ち其歸還を困難ならしめたる所以にして且つ天候不良なりしが爲め水雷艇をして之に附随せしめ以て沈没後の乗組を收容する能はざりしめたり此大損害に對しては即ち之を悲むべしと雖も斯くの如く勇壯なる行動を遂行し得たる海軍と斯くの如く健兒を有する國民に對しては我等歎賞を禁ずるも能はず勇氣と智能の適當なる度合に於て聯結するを得る國は誠に幸なるかな

旅順口に殘留する水雷艇は危險の因たるを免れざるは事實なりと雖も日本の爲め公平に之を論ずるに日本は最早や之を恐るゝに足らざるに似たり魏子高の上陸に次ぎ金州および復州に於て同一の行動執られたるもの如く兩地には各一萬の兵揚陸せしめられたりと云ふ金州に於ては十六隻ばかりの軍艦をの上陸を保護し同地に於て半噸は狭小なる地頭を爲せるに乘じ之に其砲を貫射したりと云へり此等の數字果して正確なりや或は其大約を傳ふるものなりや其は何れなりとするも日本軍の滿洲侵入は今その全力を以て行はれ居れるものと明白なりとすべし

露軍敗退の結果

鴨綠江方面よりは又黒木將軍の提報達せり將

軍は六日を以て鳳凰城を占領したりと云ふ同地は即ち若干の彈藥を燒棄したる後露軍の去る三日に於て既に撤退したる所なり此退却に當りて重要な戰鬪ありたるや否やは不明なり唯日本騎兵その敵を潰散せしめたりと云ふを聞くのみ鴨綠江の戰に關する其後の報道は露軍の損害その初めに報せられたるよりも遙に大なるべしとの想像をして置ならしめたり其死傷者必ず三千名より少なからざらん戰場に於て日本軍の埋葬したるもの千四百名あり五百の負傷兵及び健兵は捕虜として日本軍に收容され八百の負傷兵は退却軍隊と共に鳳凰城に達したりと云ふ

露國の決意に對して斯く連續大打撃の與へられたる結果如何は即ち其牛莊を放棄せんとするに依りて明白に之を察するを得べし鴨綠江の取卸し中にして守備隊また撤退の準備を行ひ居れりと云ふ是に於てか即ちクロバトキヤン將軍奉天に退却し遼陽放棄されんとするの説傳へらるゝに至れり目下の處斯く急遽なる撤退を行はざるべからざる理由ありやと云ふに至りては之を知るも能はずクロバトキヤン將軍にして若し當初の思想に依りて露國の威名と權力とを辱しめざる一軍隊の集中する

に至るまで其退却を行はんとするものなりと
せば其決断の誤れるを見ざるべからず但し想
定したる計略としての退却は自ら別問題なり
包圍されて將に攻撃されんとする二萬五千の
露兵を有して敗戦の後に行ふ退却とは分別さ
れざるべからず東亞に於ける各人種は皆戦術
の微に通ず計略と退走とは自ら之を識別する
を得べし使算が今見る所の實情を他にあらす
一隊の露軍を破られ一隊の露軍は包圍されて
將に攻撃されんとす去太是れなりクロバト
兵に對して一臂の力をだも假さんものと謀ら
ざるに於ては東亞の衆民が見て判定すべき所
唯一あるのみ而して其判定する所露國の威名
に反するもの大なるや疑を容れず之が爲め各
方面に於ては鴨綠江の敗戦たる其一部の災害
なる止まらず其結果に於て更に一層災害の
甚だしきものあるを感ぜ居れり

タイムスの軍事批評 (四十二)

露軍の窘迫

タイムスの軍事批評家が其五月十二日の紙
上に論じたる所左の如し

八日付、九日付、十一日付の露國公報に據れ
ば日本の第一軍は六日鳳凰城を占領したる後
同地に駐留し遼陽に至る本街道及び之に並行
する左右の道路に斥候を放てり鳳凰城の東北
四十四哩寬甸縣は五日日本軍に依りて占領さ
れ同日若平の日本軍隊は又大孤山より北方に
行進して交戦し八日及び九日に於て近衛師團
なりと認めらるる他の軍隊鳳凰城より海城に
向け進軍し居たりと云ふ

露國の參謀部より出でたる此等の報は何れも
斷片たるを免れずと雖も他の方面より來たる
紛々たる風説よりは寧ろ形勢の實狀を示すに
堪へたるものあり即ち日本軍は鳳凰城を経て
東北及び西南に廣く其戦線を展開し居れるを
見るべし

遼陽及び遼陽附近に於て用ふるに堪へたる露
國軍隊が黒木將軍の指揮する兵よりも甚だし
く優勢なるを見又露軍の兵力及び其地位の必
ず日本軍に偵知され居るべきを察せば黒木將

軍を以て何等の援護を受くるものとなく其第一
軍を遼陽に急行せしむるものなりと爲すは頗
る其實際に反するものなりと爲さるべから
ず

我等が同盟國は遼東半島に於ける其兵の揚陸
に就て少くも或點まで其實を發表せり然れど
も大孤山方面に於ける其計畫即ち黒木將軍の
右翼に於ける運動に就ては巧に秘して之を漏
らさず我等は依然として日本軍大部分の現勢
と計畫とに付き何等の確證をも有せず然れど
露國の報告に現れたる六日より九日に至る
第一軍の地位より判斷して我等は之を以て其
孤立したる運動にあらざるを見他の軍隊の又
あれど其行動を共にし居れるものあるを悟ら
んとす即ち一般の解釋する所は日本軍頗る其
戦線を廣げて展開し丘陵を越え並行せる道路
を取つて露軍の陣地に向け進軍し居れりと云
ふにあり此軍は其攻撃の主力を右翼に於て下
すべきや左翼に於てすべきや將た又た中央な
るべきや其點に至りては目下何等の之を我等
に表示するものあるなし唯明確なる一事は
日本の右翼を以てする運動は一として戦術上
露軍に危険ならざるものなきと是れなり

クロバトヤン將軍その兵力を拾收し山岳の爲
めに分別されたる日本の縱隊に對し其何れか

に打撃を加へ以て鴨綠江の敗戦を償はんと欲
するは自然の情なり然れども露國に於て單純
なるものは之を實行するに於て頗る困難なる
ものなりからず伊太利のアルプス境上に於て
行はるべき露國の特殊に連なるものは皆兵力
六萬の上に出づる軍隊の一戰團隊上即ち一營
谷内に於て有効に用ひ得べきものにあらざる
を知らん蓋し是れ以上の兵數は之を展開して
戦闘に加はらむるものと能はず寧ろ煩累を増
すの因たるを以てなり日本軍の今近接したる
地方はアルプスに等しき特徴を有するものと多
し第一軍にして若し露國の優勢なる軍隊に依
りて襲撃さるゝとあるも其側面にして近傍
の豁谷に於て保護さるゝに於ては充分之に抗
戦するの力を有す現下並行縱隊は其運動を繼
續し居り其之に攻撃し來る縱隊に對しては其
側面及び後方を威嚇し居れり山地戰は其他の
戰術と等しく國民軍の創設以來その作戦を變
更せり昔時金て行ふべからざりし行動も其後
得て行ふべきに至りたるもの多からず

露軍の匆忙半莊を撤退したるはクロバトヤン
將軍その左翼に疑懼を抱き其之を退却さるゝ
の危険を敢てせざらんとするを示すものなり
斯くの如くにして即ち第一軍は其運動に依り
て重要な陣地より露軍を驅逐し得たるもの